

Dubai ドバイ

石油産国として経済成長を遂げ、高層ビルが建ち並ぶ近代都市ドバイ。ドバイは2020年に中東初の国際万博となる「ドバイ国際博覧会 (Expo2020Dubai)」の開催が決定しており、現在ホテルの増加やインフラの整備が着々と進んでいる。将来を見据え石油依存型経済からの脱却を図るドバイの MICE や万博の最新事情に迫る。



今後大きな観光スポットになると言われている運河はドバイクリークからジュメイラビーチ付近につながる。「運河のスタート地点の漁港はドバイ始まりの地で、歴史的なドバイを見ることができ、中心部に進むと近代的なドバイを感じることができます。ただの交通手段ではなく、観光・ショッピングなど、さまざまなアクティビティの可能性を秘めています (Jakobsen 氏)。(2016年10月16日撮影)



LED プロジェクションが映し出される世界一の高層ビル (BurjKhalifa)



ミーティングルーム (Armani Hotel Dubai)



ミーティングルーム (Palazzo Versace Dubai)

MICE 開催地としてのドバイ

年々増加する外国人観光客

2014年にヒースロー空港を抜き国際線旅客数1位となったドバイ国際空港。Airports Council Internationalによると2015年には前年比10.7パーセントという驚くべき増加(7,745万3,466人)で、2年連続の首位となった。2015年度の外国人観光客数はおよそ1,420万人に上り、万博を開催する2020年には2,000万人を見込んでいる。

万博に向けホテルを増加

女性にはスパやショッピング、アクティビシニアには歴史的観光地ツアー、ファミリーにはアクアリウムや大規模プールなど、現在もドバイは客層ごとに人気のコンテンツの充実を図っている。また世界一のハブ空港として飛行機の乗継の合間に前後泊し「ハブ観光」する人々も重要な客層になるため、さまざまなアクティビティ体験ツアーのPRを行っている。

また2020年に向け、より多くの観光客を迎え入れるためホテルの充実

にも注力している。中心部には多数の5つ星高級ホテルが並び、ホテル部屋数は2020年には10万に上るとされ、中心部の建設ラッシュは続く。

地理的優位性をいかした誘致

ヨーロッパ、アジア、アフリカの中間点に位置するドバイはミーティング、コンベンションの開催地としても適しており、「GITEX TECHNOLOGY WEEK」や「Dubai Airshow」など、多くのビジネスイベント開催実績を残している。多くのホテルがビジネスイベン

トに適したミーティング、バンケットルームを有しており、これまで以上のMICE誘致を図るドバイではMICE専門機関となる「ドバイビジネスイベント」を設け、会場の手配をはじめとするMICE開催の全面サポートを行なっている。

日本との関係

ドバイのあるアラブ首長国連邦は日本の大相撲へ友好杯を贈るなど、両国は良好な関係を築いている。今後のMICEについて、ドバイは日本をどう見ているのか。ドバ

イビジネスイベントディレクターのSteenJakobsen氏(=写真)は「ビジネスでの結び付きが必要になると考えており、より一層のマーケティングセールスが必要だと思っています。現在、日本市場開拓に向け取り組みを始めているところで、来年にはドバイで開催する展示会への出展誘致などを目的としたセールスミッションを日本で開催する予定です」と述べ、日本に対してMICEの「I」だけでなく「E」の分野での市場拡大を期待していることを語った。



ドバイ政府観光・商務局
ドバイビジネスイベントディレクター
Steen Jakobsen 氏

ドバイ国際博覧会

ドバイ国際博覧会は2020年の10月20日から2021年の4月10日の6カ月間開催する。今回の開催は40℃に上る真夏の気候を避けるため秋スタートとなった。

従来とは異なる開催目的

これまで万博は経済成長や社会基盤整備の促進、都市の知名度向上を目的として開催されてきたが、ドバイ万博では、これらの目的は既に達成されているとして新たな目的を設けた。「国や地域、文化を超え世界中の知性を集め人々を一つに結び、さまざまな国際問題に対する持続可

能な解決策を生み出すため、人類の発展に貢献するための万博」としている。

テーマとサブテーマ

この目的により今回のテーマは、「Connecting Minds, Creating the Future (知性と心をつなぎ、未来を創る)」を掲げる。これはドバイ自体が空港、商業、観光などの分野で地域のハブとして発展してきていることから、適したテーマとなった。

サブテーマには OPPORTUNITY (機会創出)、MOBILITY (可動性)、SUSTAINABILITY (持続可能性) と世界でも関心が高いとされる3ワードを選出した。「機会創出」で

は社会の中でさまざまな機会の創出をどのように図るかを、「可動性」では今よりも良い交通・物流システムに、「持続可能性」では地球環境の保全とエネルギー資源利用のバランスをいかに策するかに焦点を当て、多様な展示やプロジェクト、イベントが企画される。

関連団体が一丸となった運営を

開催中は文化イベント、トークショー、サブテーマ関連のトピックスについてのディスカッション、新技術の発表、エンターテインメントなど毎日60～70のイベントを行なう予定だ。参加は180以上の国、団体、企業、来場は2,500万人を見込んで

いる。来場者の7割が海外からの来場者になると予想され、関連政府機関や諸団体は、空港からホテル、ホテルから会場、また会場内での移動などを円滑に行なえるような運営体制を整えている。

会場

会場はドバイ・サウス地区に現在建設中で、3つのサブテーマに対応する3つのひし形のバビリオンから成り立つ建物になる。広さは全体で4.38km²、来場者の流れをスムーズにするため、駅から直結する入場口も含め4カ所の入場口を設ける。3つのバビリオンの中心部には「接続性」の意味を持つ「Al Wasl Plaza (ア

ル・ワスルプラザ)」という広場が設けられ、多くのイベントを行なう予定だ。

レガシーを残す

万博などのビッグイベント開催後はどのような遺産を残すかが重要とされる。ドバイ万博では地方経済にもたらす経済効果はもちろん、期間中のビジネスプラットフォームやイニシアティブが万博後に広く社会へ普及することも重要な遺産になるといわれている。また、シリアやイラクなどの報道からドバイを含む中東地域全体にもたれているネガティブなイメージをポジティブにすることも大きな遺産としており、2,500万

人が来場するこの機会にイメージ改善を図る。

世界一高いタワー「BurjKhalifa(ブルジュ・ハリファ)」をさらに超えるタワーや、新たな人工リゾート島、ドバイ都市部を周回する運河など、さらなる都市開発にまい進するドバイ。都市部より少し車を走らせると、一面に広がる砂漠を見ることができ、SF映画の世界とも例えられる砂漠と近代的な都市に魅力を感じ訪れる人は少なくない。今後もどのようなMICEを生み出し続け世界の人々を惹きつけるのか、ドバイのこれからの期待したい。



ファミリー向けのホテルにはアクアリウムも (Atlantis The Palm)



ドバイ名所を周遊するヘリコプターツアー



会場模型



高さ150mに達する圧巻の噴水ショー (The Dubai Mall)